**―人生100年時代からの要請 ―**

（ 一財）日本退職公務員連盟

専務理事小松　博則

人生は1回きりです。多くの人には生きる手立てはあっても何のために生きるかという「意味」については、哲学の領域であって、日常生活の中で特に意識する人は多くはありませんが、ある地域の退公連の高齢者サロンでは「どう生きるかが参加者の大きな関心事になっている」とも聞きます。

人それぞれででしょう。 人生100年時代を迎えて、私たちは「どう生きて、 これから何をするか」この度のコロナ禍に遭遇して、おぼろげながらこの課題を意識し始めた人もおられると思います。皆さんとご一緒に、退公連という組織の中で、この問題について考えてみたいと思います。

**明るい未来を描く**

我が国は今、人類未到の地を歩んでいます。労働力人口の減少は社会保障制度の在り方に影響して若者の将来への期待感を縮小させています。政府は全世代型の社会保障制度を謳い、 子ども、子育て世代に制度の光を当てようとしています。若い世代の減少は、高齢者の活躍を求める社会を招来しますから、高齢者自身にも、その社会を明る＜豊かな未来として描くことが求められます。そこでは、長年の経験と知恵がよりどころになります。 人生の仕上げとして、 元気あふれる子どもや若者の中で、 自らと社会の将来を想い描いて共に行動したいものです。

**時間は流れるものではなく、積もるもの**

公務員としてのキャリア、地域の役員・退公連会員としての活動、ここで培われたものは、質と量とその多彩さにおいて世間が高く評価する個人の人 生の財産です。この財産を繋いで退公連の財産に出来ます。特に、若者に注力して、全世代が、将来に夢を描くことの出来る社会をつくる資源とする。

例えば、若者が行動力、体力、新しい発想で、若者らしい事業を地域社会に誕生させようとする、そのときに知恵を出し、経験を語って、その活動を見守って、時に修正意見を出す。そういう役割がまだ地方には色濃く残って、高齢者の活躍の場と機会があると思います。考え方が違って、若い人の中には入りにくいと尻込みをしないで、時には行政の力を借りて一緒になって、体力に合わせて活動を続け、人生のキャリアを上積みしたい。

**人生100年時代からの要請**

「100 年時代からの要請」は多方面にわたる退公連の各活動の関係と関連性を示す座標軸です。日公連の３委員長会で起案し、数々の会議、日公連OBの方々の知恵で平成29年5月の評議員会で決定されたものです。

会員の皆様のお持ちの財産（経験・知識等）は多彩で質・量共に世間は高く評価します。かつて西欧では「高齢者1人の経験と知恵は1つの図書館に匹敵する」と言われていました。紙と活字主体の無機質の存在と違って、会員の皆様（図書館）は行動して、状況を見て発信し、時に怒り、共に悲しみ、 利用者に勇気と希望を与える図書館です。そういう人間味のある図書館の役割を高齢者は持っていると、この言葉の意味を理解します。

ところが、その財産が本人に意識されず、活用されず、従って人や社会の眼に触れず、評価されずに埋もれてしまうケースが極めて多い。もったいないことです。今一度、ご自分が我を忘れて楽しめること、自分の技術や経験を活かせること、社会との関係から自分で納得できること、人や社会に役立つであろうこと等々の観点から自分の日常生活を見直してみる必要があるように思います。

早朝、ゴミ袋を持って街を掃除して歩く人、ハモニカで病院や高齢者施設を慰問する、竹トンボ作りを子どもに教える人、様々な会員の方々の幸せな活動の報が日公連事務局に届きます。「何かをやってみたい」「何かで楽しみたい」「同好のグループ活動したい」。「今日用（教養）がない」生活から抜け出そうと模索している方がおられると思います。

この状況を変える一つの方策は、「受ける」生活から、「支える」生活への転換であろうと思います。コロナウイルスは外出自粛の生活を日本国民に強いてきましたが、これを期に自分の日常の生活に思いを巡らされた人も多い と聞きます。自分の生活がいかに制度やインフラや多くの人々の働きに支え られているかを、国民は意識しました。常識に欠ける一部の人々の言動の報道は、人々の「良識」「連帯」の真の意味に目覚めさせ、行動へと移行させました。

この時期、従来なんとなく曖昧であった「自分の在り方、生き方」の問題を意識の上にのせて、納得の自分の人生の創造について考えてみようではありませんか。コロナ後、日本の産業構造や人の働き方に変化が出る気配があります。世界は変化の速度を速めます。会員の皆様、ご自身で保有され、管理されている図書館の蔵書に新たな機能を見出し、付与されて、ご自分の尊厳を守り、納得の人生を生きられることを祈ります。

ご存知のように、会員の全ての皆様が所持される「経験と知識、ネットワーク、公への想い」は、今までに出会われた人々・子ども、関係された機関・組織、社会との相互の関わりの中で紡がれたものです。

 そこの所に思いをいたされて、貴重なご自分の財産であることを意識されて、社会に活かされることを祈念いたします。体が不自由になっても、毎日の生活の中で財産を活かす道は様々にあることを思い描かれますよう。

**人生100年時代からの要請**

 少子高齢化社会・技術革新・労働環境の変化・会員の長寿化に備えて

|  |
| --- |
| 人生の集大成 |
| （幸福感・尊厳の維持） |
| 健康寿命の延伸 |

地域社会のために

　　　　　　　公務員としてのキャリア

　経験　　知識　　ネットワーク

人と社会を思う心情

退公連本部・支部・分会における活動、個人の研鑽

（70余年にわたる連盟の歴史・実績）

社会貢献活動

**高齢者慰問・子育て支援・文化の伝統等**

**（役割と仕事を持って）**

**関係団体、行政機関との**

協働

組織の拡充と活性化

現役世代への啓発と支援

**年金生活の設計　健康**

**社会参加　資産管理**

経済的保障

（**生活の安）**

**年金の維持、医療・介護保険制度・税制への対応**

社会保障制度の持続性**と現役への配慮**

自己啓発自己実現

**知識・経験・技術の活用**

**学び直し（生涯学習）**

**）**

退職公務員のためめに

健康　生きがい　人間関係